

専門研修プログラム名	埼玉医科大学総合医療センター	専門研修プログラム
基幹施設名	埼玉医科大学総合医療センター	
プログラム統括責任者	吉益 晴夫	

専門研修プログラムの概要	埼玉医科大学総合医療センター精神科専門医研修プログラムは、近隣施設と連携して展開される。埼玉県は医師が比較的少ない地域であり、研修施設群として十分な症例数を確実に確保できる。豊富な症例と綿密な指導のもと、精神科専門医と精神保健指定医を最短距離で取得することができる。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	1年目は【精神科医としての基本を学ぶ】原則として基幹施設でリエゾン研修と外来研修を行う。2年目は【精神科医としての幅を広げる】というテーマで、連携施設で入院研修を行う。3年目は【後輩を指導しながらさらに成長する】というテーマで、基幹施設及び連携施設で仕上げの研修を行う。精神保健指定医の症例を得られるように、研修する施設と研修する時期の調整を行う。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	統合失調症、うつ病、双極性障害を中心に、発達障害、物質依存、認知症に至るまで、幅広い知識・技能・態度を習得する。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	症例検討会と抄読会を通して、知識・技能の習得を行う。学会報告を3年間のうちに行う。学会発表については、抄録の作成、パワーポイントやポスターの作成、予演会など、きめ細かな指導がなされる。
	学問的姿勢	生涯にわたって自己研鑽を続ける姿勢を涵養する。また、科学的思考とともに、法を順守する態度、臨床倫理的な視点を養う。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	各施設での診療を通じ、法律を順守し、人権への配慮を行い、患者や家族のニーズに合った適切な医療を、病院内外の他診療科の医師と連携し、また、多職種連携による患者中心の医療を展開する中で、リーダーシップを発揮することを目標とする。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	1年目は【精神科医としての基本を学ぶ】というテーマで、原則として基幹施設でリエゾン研修と外来研修を行う。2年目は【精神科医としての幅を広げる】というテーマで、連携施設で入院研修を行う。3年目は【後輩を指導しながらさらに成長する】というテーマで、基幹施設及び連携施設で仕上げの研修を行う。精神保健指定医の症例を得られるように、研修施設と研修時期の調整を行う。
	研修施設群と研修プログラム	基幹施設と14の連携施設から成り立っている。児童・思春期精神障害、アルコール・薬物依存症の症例も経験できる構成となっている。
	地域医療について	基幹施設、連携施設での研修において、地域医療の大切さを体験し、地域の医療や福祉のシステムを理解した上で、連携を牽引する姿勢を涵養する。
専門研修の評価	研修プログラムの作成や施行上の問題点の検討や再評価を継続的に行う。専攻医からの評価を取り入れながら、施設間のローテートを柔軟に修正して適正化する。	
修了判定	研修基幹施設の研修プログラム管理委員会において、専門的知識、専門的スキル、医師として備えるべき態度について評価を行い、総合的に修了を判定する。	

専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	研修プログラムの作成や施行上の問題点の検討や再評価を継続的に行い、各専攻医への評価と助言を行う。
	専攻医の就業環境	学修機会を豊富に提供することはもちろんのこと、バックアップ体制が整い、勤務時間が適正で、ハラスメントのない、専攻医が安心して研修できる安全な体制を整え、専攻医の心身の健康維持に努める。
	専門研修プログラムの改善	専攻医による評価やサイトビジット等の評価を受けて、プログラム管理委員会での検討を経て改善する。
	専攻医の採用と修了	日本専門医機構 HP に掲載される案内を確認の上、専攻医の募集と採用を行う。修了は、3年以上の研修、研修項目表による評価、多職種による評価、経験症例数リストの提出が要件となる。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	特定の理由により研修困難な場合は中断することができる。6ヶ月までの中断であり、事由について日本精神神経学会の承認を受けたものについては、必要症例等を満たせば研修期間の延長を要しない。特別な理由により、プログラムを移動する際は精神科専門医制度委員会に申し出る。
	研修に対するサイトビジット (訪問調査)	日本精神神経学会によるサイトビジットや調査に応じる。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	吉益晴夫（埼玉医科大学総合医療センター教授）、安田貴昭（埼玉医科大学総合医療センター准教授）、志賀浪貴文（埼玉医科大学総合医療センター助教）、松尾幸治（埼玉医科大学病院教授）、大西秀樹（埼玉医科大学国際医療センター教授）、成瀬暢也（埼玉県立精神医療センター副院長）、田巻龍生（東松山病院病院長）、丸木努（埼玉精神神経センター副院長）、他	
Subspecialty領域との連続性	精神科サブスペシャリティは、基本的には精神科専門医となった者に対してより高度の専門性を獲得することを目指すものとする。	